

シニア世代の健康と福祉の祭典

ねんりんピック2011熊本レポート

ふれ愛



【KKWING】～堂々たる入場行進

「火の国に 燃えろ!ねんりん 夢・未来」をテーマに、今年の熊本大会は10月15日から4日間、熊本県内9市4町で開かれました。全国から1万人近い選手が集結。宮城県からは強豪ぞろいの128人が19種目に出場しました。

「火の国・くまもとへ」

総合開会式は、熊本県民総合運動公園陸上競技場「KKWING」が会場。競技関係は16日から熊本市を中心に各市町で2日間、繰り広げられました。心配された選手たちの移動による疲れも、鍛錬された肉体からはみじんも感じられず、白熱した競技を展開。ゴルフやソフトバレーボール、ダンススポーツ、囲碁などの種目で上位入賞し、特に「なぎなた」は団体と演技競技で、それぞれ優勝を飾りました。

どの種目も競技を終えると、積極的に対戦相手の労をねぎらう姿が印象的でした。互いに地域を超えた交流が広がり、思い出深い大会となったようです。

熊本市内の路面電車に乗り、城下町を抜けて熊本城へ行くなど、歴史とロマンを堪能した選手も大勢いました。幸い天候に恵まれ、少し蒸し暑さも残るほどで、まさに「火の国・くまもと」を肌で感じる大会でもありました。

今大会を振り返って

宮城県選手団団長 三浦俊一さん

(県社会福祉協議会会長)

今大会は東日本大震災を受け、果たして宮城県として参加できるのか、参加していいのか、悩ましいところでした。最も大事なことは選手の気持ちだと、私たちは各競技団体を通じて情報を集めました。

参加を決めたのは5月のゴールデンウィーク明け。「厳しい状況だが、むしろ頑張っている姿を全国の人に見てもらい、支援に心えたい」。そんな強い思いを選手から感じることができました。

そして開催前日、総勢135人の県選手団でバスや新幹線、飛行機を乗り継ぎ、12時間ほどかけて熊本入りしました。

総合開会式では、皇族や全国の選手、役員の方々の前で、支援のお礼と今大会への意気込みをアピール。選手たちも種目ごとに交流する中で、感謝や被災地の実情、頑張っている姿を伝えました。

結果としては、なかなか上位に食い込めなかったけれども、今大会は参加することに意義があったのだと思います。被災した宮城

岩手、福島、福島の3県への励みや気遣いを随所に感じられる印象深い大会でした。音楽文化祭では震災復興をテーマにしたオリジナルの民謡を発表していただいたり、町を歩くと熊本市民からねぎらいの言葉をいただいたり、復興に向けて前進する力を得ました。

総合開会式では、蒲島郁夫熊本県知事から次期開催県の三浦秀一宮城県副知事へ、大会旗が引き継がれました。三浦副知事の力強い決意表明には、私たちが選手も身の引き締まる思いでした。どこまで元気になっているのか、どこまでもてなせるのか。胸を張って全国の皆さんをお迎えることができるよう、決意を新たにしました次第です。



ひのくに2011(ふれ愛)キッズ

「かわいい応援団！」

「ひのくに2011キッズ」

総合開会式が行われた「KKWING」。選手らの待機場場となった補助陸上競技場では、かわいい子どもたちが「宮城県ファイト」と記された応援横断幕を掲げてのお出迎えです。

子どもたちは、ひのくに2011(ふれ愛)キッズ、熊本市立託麻西小学校の児童です。「ねんりんピック2011(ふれ愛)熊本世代間交流運動」と称し、参加各都道府

県の選手を専属に応援するものです。

事前に宮城県の自然や文化・歴史などを学習してからの応援であり、孫世代からの応援とあつて選手らの大きな励みとなりました。お礼として、三浦俊一団長(宮城県社会福祉協議会会長)が児童代表にプレゼントを手渡しました。

「感動の総合開会式」

「宮城・仙台大会へ」

大会最終日の18日には、崇城大学市民ホールで総合開会式が開かれました。

ふれあい交流から生まれた思い出や、ねんりんピックの意義をあらためて確認するのになさわしい、感動的な式典でした。

来年のねんりんピックは宮城・仙台大会です。大会旗が熊本県の蒲島郁夫知事から宮城県の三浦秀一副知事に手渡され、触れ合いの輪が引き継がれました。

宮城の特色を生かした温かいおもてなしで、多くの方々が楽しみながら交流が広がるように期待します。



第25回全国健康福祉祭 宮城・仙台大会
ねんりんピック宮城・仙台2012
平成24年10月13日(土)～16日(火)
伊達の地に 実れ!ねんりん いきいきと
<http://nenrin2012.jp/>

各競技の参加者募集状況や予選会開催状況などは下記へ

●(社)宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課 ☎022-223-1171

ホームページ <http://www.miyagi-sfk.net/>